

公益財団法人泉北のまちと暮らしを考える財団 2023 年事業報告書
(2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)

【概要と主な成果】

2023 年度は以下の 3 点を重点目標とし、取り組みを進めてきた。

①コミュニティ財団としての資源仲介と伴走支援の本格化

2020 年度「私と地域と世界のファンド」(特定非営利活動法人関西 NGO 協議会・社会福祉法人大阪ボランティア協会・当財団)を通じて 7,960,448 円の支援を行い、2021 年度は泉北子ども未来基金助成として 338,153 円を交付し、医療機関支援(47 コロナ基金大阪)助成原資 6,300,000 円を 5 医療機関へ助成を実施した。2022年度は、休眠預金活用事業に採択を受け、4,500 万円1団体、3,000 万円2団体への助成プログラムを継続している。

特に 2023 年度は、本事業の中長期アウトカムである「自走型自治モデル」の実現をめざして 3 団体が小さなコミュニティ拠点と自立型のコミュニティビジネスの実現に踏み出した。

②団体支援拠点「泉北ラボ」の安定化

2022 年 1 月に事業を開始した「泉北ラボ」は 3 期を通じて交流人口(のべ利用者数)が 40,160 人に達した。2023 年度にシェアキッチン部門のべ 13,000 人、泉北ラボ 1,089 人、コミュニティフリッジ利用者数 のべ 3,908 人、1 年間の交流人口 17,997 人とコミュニティ財団としても新たな自治を補完する拠点を持つことで地域課題の解像度を高めている。

③多様な資金循環の強化(遺贈寄付基金)

2022年度に解説した財団オリジナルのクラウドファンディングサイトを通じて 3,331,957 円・4 つのクラウドファンディングを実施した。また、遺贈寄附受付窓口を開設し、PR チラシ作成に加え、地域に寄附する市民を増やすため情報発信を実施している。地域における新しい資金循環を生み出すための、土業とのネットワーク構築の一步が始まった。

【事業の構成】

1. コレクティブインパクト推進事業 …P2
2. 助成プログラム事業 …P5
3. 啓発事業 …P8
4. 管理業務 …P10

【事業の内容】

1, コレクティブインパクト推進事業

(1) 団体支援拠点「泉北ラボ」の運営を通じたコーディネートの実施

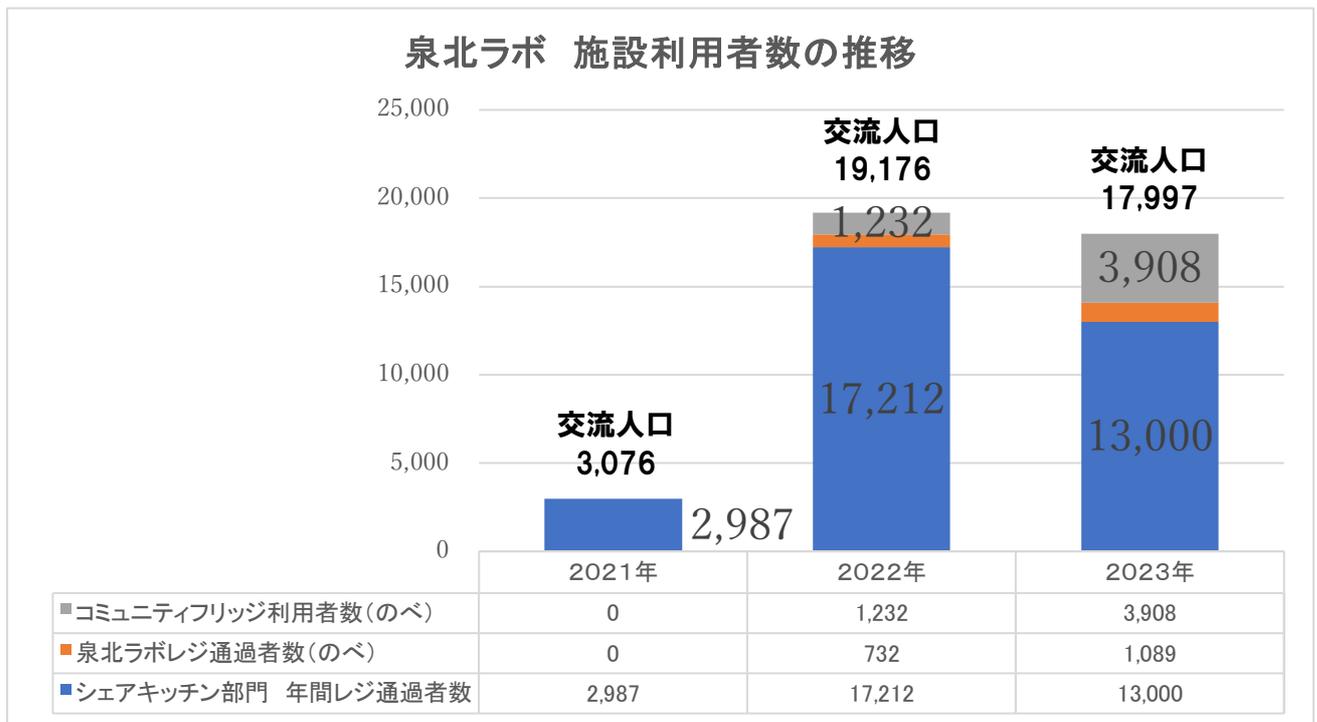
泉北ラボは私設公民館・まちな家事室として地域の居場所を提供し、地域の暮らしの困りどが集まり、一つずつ困りごとを解決できる専門家や個人へ接続することを目的に運営している。また、大阪健康福祉短期大学堺・泉ヶ丘キャンパスのめざす「シェアタウン泉ヶ丘ネクスト」の実現を目指す地域の交流拠点として活動を行っている。

今年度は、下記機能を提供し団体支援拠点として1年間の営業を継続した。3期を通じて交流人口(のべ利用者数)が40,160人に達した。

□開館実績と関係人口

平日・土曜日(祝日・日曜日休業)10:00~18:00で実施した。

交流人口年間利用者数は17,997人、3期を通じて交流人口(のべ利用者数)が40,160人に達した。



□事業成果

「泉北ラボ」の運営での関係人口が増加増加している

内容	2023年度	2022年度
会議室、ワーキングスペースの貸し出し	のべ230団体 貸室利用料収入 917,000円	のべ232団体 貸室利用料収入 781,750円
まちな家事室コインランドリー	のべ438人 利用料収入 219,000円	のべ191人 利用料収入 95,500円
コワーキングスペース	のべ259人 利用料収入 48,200円	のべ309人 利用料収入 54,850円

印刷機の貸与	8076 枚 利用料収入 53,870 円	利用料収入 46,025 円
視察利用	141 人 利用料収入 235,700 円	利用料収入 64,500 円

コミュニティフリッジ(地域からの寄附を配分する冷蔵庫)の仲介・管理

内容	2023 年度	2022 年度
コミュニティフリッジ利用者	のべ 3,908 人 (登録数 132 人)	のべ 1,232 人 (登録数 76 人)
食材・日用品の寄付	提供登録者 87 人・団体 1,742,382 円(定価での換 算)	提供登録者 53 人・団 体 1,283,063 円(定価での 換算)

□今年度注力したこと

- ・ イベント利用の受け入れ
→まちの家事室としてまちの交差点を実現するために会議利用以外にイベント利用を受け入れる体制を作った。利用相談→面談→調整→広報→実施の業務フローができた。現在 38 団体が登録している。
- ・ 視察の受け入れ(のべ149名)
→トヨタ財団国内助成の成果物として『まちの家事室「泉北ラボ」を起点にコロナ禍の「見えない孤立」に挑む、自走型自治モデル報告 2021-2023』を発行した。泉北ラボのノウハウを広げ、寄付収入につなげる視察資料として提供するだけでなく、Amazon パブリッシングを活用してオンラインでの印刷サービスを使いいつでも購入できる体制を構築した。その結果、視察数が増加し、寄付のお礼としての書籍は 151 冊提供することができた。
- ・ 泉北ラボ実行委員会を通じた運営体制の設定
→年 10 回のコーディネーター会議を実施し運営課題や利用者への社会資源仲介について検討を行った
※生まれた取り組み例 チクチク会
連合自治会×大阪健康福祉短期大学との花壇整備
連合自治会×大阪健康福祉短期大学との防災訓練
地域包括センター×泉北クネクネによる泉北福祉施設ウォーク
- ・ コミュニティフリッジ利用者の中で社会資源につながっていない・つながるニーズの高い方を社協、子育て支援課、おおさか幸せネットワークへのコーディネートの実施
- ・ 運営コーディネーターとの協働
泉北ラボを利用する団体や相談者など関心のある市民への機能の充実を行った
→運営コーディネーター参加するボランティアが 3 名生まれた。また、地域の社会福祉法人への就職につながったコーディネーターが 1 名生まれた。

(2) 泉北ラボ実行委員会を中心とした支援者と資源のコーディネートの実施

泉北ラボコーディネーターが得た地域課題について検討を行い下記のコーディネートを実施した。

□今年度注力したこと

地域の支援者とそれぞれ信頼関係を構築するために協働で事業を行った。

- ・ 堺市南区役所子育て支援課を通じ児童扶養手当受給者などへコミュニティブリッジのPR活動を実施した。
- ・ 高倉台校区連動自治会と連携し連合自治会 5 役会議に参加し情報連携した

□次年度への課題

これまで支援者とネットワークを組み、1 件ずつ課題を解決してきたが、物価高騰など生活環境の悪化が加速し、孤独孤立の当事者のコミュニティブリッジを通じた相談が増えている。泉北ラボがハブとなり接続できる社会資源との関係構築が求められている。またニーズの拡大による食材の寄付の安定化が求められている。

(3) おかず BOX の普及拡大支援

□今年度注力したこと

- ・ 今年度は原山台・城山台に範囲を拡大し、おかずボックスを継続実施した

対象校区	竹城台東校区、茶山台校区、桃山台校区、城山台・原山台
合計食数	のべ 4,359 食 2023 年度 1,270 食 2022 年度 1,335 食 2021 年度 1,096 食 2020 年度 658 食

□次年度への課題

- ・ 泉北ラボ・コミュニティブリッジとの仕組みの連携や実施範囲の拡大新しい担い手を生み出すなど、今後の展開が求められる

(4) 事業評価の実施

□今年度の取り組み

- ・ 中長期計画につなげるために理事会において評価を行うために評価のための準備回を開催した。また、設立から当年度までの事業を振り返るテキストをさくせいした。
- ・ 今年度は泉北ラボのふりかえりに注力したため事業評価指標の設定と事業評価を実施できていない。

□次年度への課題

評価のための指標はデータ化されているが評価するための体制構築が求められる

※定款に定める事業(1)(2)(3)(7)(9)

2.助成プログラム事業

(1) 泉北ニュータウンの孤立と地域をつなぐ助成の実施

休眠預金等活用法に基づく資金分配団体として草の根事業支援の助成対象事業を実施している。

□今年度注力したこと

- ・ **自走型自治モデルのための実行会議でのケース検討の仕組みを作った**
 助成プログラム 2 年目にあたる今年度は、実行会議におけるケース検討が特に地域内ネットワーク形成を支援した。特に、実行会議に生まれた事業や解決ケースの把握するため、のべ78件のケース検討が実施され、複数名のネットワークや協働が生まれている。
- ・ **実行会議による課題把握の検討を行うノウハウの可視化**
 実行団体の抱えるケースで共通点の多い「中学生の孤立」について、「見えない孤立円卓会議」を開催した。2023年 7,12 月,2024 年 2 月には孤独孤立の支援スキームを広げるためにを開催し、社協や地域の支援者との支援手法の意見交換会を開催した。その際に、実行会議による課題把握の検討を行うノウハウを可視化した。
<https://communityinvestment.jp/issues/169/>
- ・ **小規模多機能な課題解決を促進する体制としての連携体制の構築**
 課題解決につながるケースでは、実行団体のスタッフによる努力が大きく、例えば要対協、重層的支援体制整備事業の専門部署との連携など公的な支援体制との連携も重要となる、そのために次年度の実行会議には、もう少し多様な専門機関へ呼びかけたい。
- ・ **堺市との協働**
 また、堺市へ政策提言を実施した一環として、SENBOKU スマートシティコンソーシアムスマートタウン ワーキンググループ「ICT 技術×企業等との連携で地区課題の解決をめざす人材」通称、市民ハブ人材に実行団体3団体の代表が選ばれた。今後、公的な資源の比重が高かった支援体制に ICT や民間企業との協働が進む体制の準備ができた。
- ・ **中間評価の実施**
 資金分配団体・実行団体両方で評価を実施した。第三者レビューを審査委員に依頼している。2023年9月3名の外部評価者に総合レビューを実施した。9月には3団体の現地訪問も進め、評価した。
- ・ **伴走支援体制**
 毎月の伴走支援として実行団体 3 団体との毎月の定例ミーティングを実施している。(24 回実施) 及び、地域の課題解決ネットワーク会議の実行会議に参画し団体を支援している。ノウハウ化するために定例 MT,実行会議、ケース検討とケース支援の実践を随時把握している。
- ・ **実行団体の基盤強化**
 実行団体の組織基盤強化のための研修会や学習の開催を通じて、基盤強化のための支援や協力を実行した。2022年9月評価研修、及び毎月の定例 MT の定期開催を行っている。
- ・ **ファンドレイジング支援のための準備**
 財団独自に地域のクラウドファンディングプラットフォームを提供した。
<https://communityinvestment.jp/>

・ 広報 PR

NPO 法人志塾フリースクールラシーナ/Jcom 堺局・生放送番組 LIVE!ニュースにて 30分番組へ出演

https://twitter.com/jcom_osaka/status/1694129884627685397

団地ライフラボ(大阪府住宅供給公社「茶山台ほけんしつ」

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000232.000019188.html>

地域課題 PR サイトでの発信

コミュニティ基金ページにて現在 10 件の記事を公開している。

<https://communityinvestment.jp/activity-log/>

□事前評価の実施

- ・ 社会的インパクト評価に基づいた事前評価計画を実施した。その結果、本事業のロジックモデルを設定した。その結果、中長期アウトカム を「自走型自治モデル」とし、支援者のネットワークを構築し、地域経済が持続的に循環する自治モデルをめざすことを設定できた。

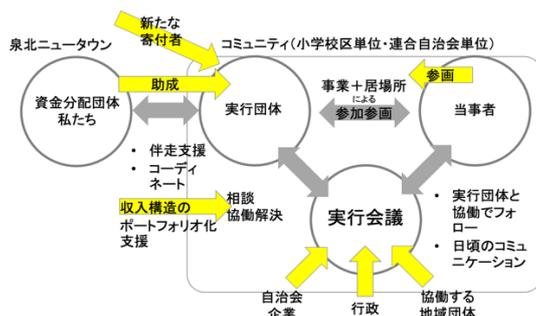
□次年度への課題

- ・ 地域の自治モデルへつなげるための伴走支援の強化(組織基盤強化/ファンドレイジング)
- ・ 評価の定期的な確認の実施
- ・ 空き家・空き団地・空き室を拠点とし活用したコミュニティビジネスの支援
- ・ 空き家・空き団地・空き室をソフト事業の活用モデルの情報発信
- ・ 評価のための指標はデータ化されており、評価するための体制構築が求められる

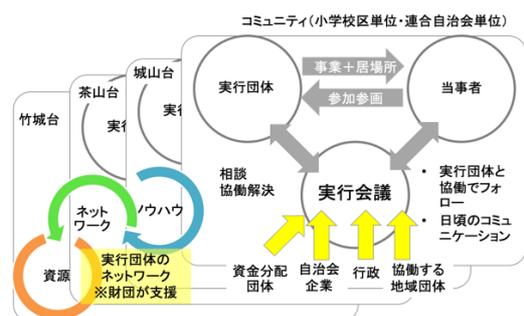
□事業評価の実施

- ・ 事業評価のための2022年度事前評価を実施し中間評価を2023年秋に実施した。
- ・ 評価では3実行団体のロジックモデルと評価のためのアウトカム・アウトプット指標を作成し、その総合成果を取りまとめる形で、資金分配団体としてもロジックモデルと評価のためのアウトカム・アウトプット指標を設定した。
- ・ その中で、本事業を通じて支援者のネットワークを構築し、地域経済が持続的に循環する自治モデルとして自走型自治モデルを各地域で実現できる状況をめざしている。

○支援の枠組み



○めざしている中期アウトカム



※定款に定める事業(4)

(2)事業指定寄付プログラムの実施

□今年度注力したこと

- ・ 当財団の賛助会員として指定寄付を公募し 2023 年度 13 人 199,888 円(2022 年度は 19 人・177,111 円)の寄付を募った
- ・ 一般寄付として解散した自治会より 1,261,657 円の寄付を受け財団の事業指定基金に充当した。
- ・ クラウドファンディングの仕組みを、助成先団体へ提供し 681,000 円の寄付機会を提供した。
- ・ 当財団の運営寄付プログラムとして 120 万円をご寄付いただきたい。

□次年度への課題

- ・ 当財団の運営寄付プログラムへの寄付の安定が必要となる
- ・ プロジェクトチームを理事会に発足し、検討を開始する
- ・ 分野別・テーマ別事業指定寄付基金を設置する

(2)泉北子ども未来基金

3,啓発事業(1)孤独孤立対策活動基盤強化の実施を通じて、泉北子ども未来基金を設置した。

□今年度注力したこと

- ・ 調査事業によって地域における孤立状態にある子どもたちの支援モデルを「子どもケースマネジメント」として解説ページを作成し、基金のランディングページの強化を実施した。初年度は 15 万円の寄付を募ることができた。

ランディングページ 泉北ニュータウンの子どもたちの「見えない孤独孤立」を救いたい！

<https://communityinvestment.jp/project/655/>

□次年度の課題

- ・今年度は助成プログラムの実施体制を整えることができず助成プログラムは未実施

(3)事業評価の実施

事業評価を実施できていない。

□次年度への課題

評価のための指標はデータ化されているが評価するための体制構築が求められる

3,啓発事業

(1)孤独孤立対策活動基盤強化の実施

家にも学校にも地域にも居場所がない見えない孤立に悩む子どもたちをコレクティブインパクト型子どもケースマネジメントモデル構築事業として実施した。

具体的には、内閣官房「令和5年度 孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査」事業へ参画し、地域だからこそ見える「見えない孤立」への解決アプローチ手法としてインタビュー調査を実施した。

□今年度注力したこと

- ・ 本事業は大阪ボランティア協会が幹事となり5つの都道府県の間接支援組織と協働で実施した。
- ・ 泉北では、地域における孤立状態にある子どもたちの支援モデルを「子どもケースマネジメント」としてノウハウを報告書にまとめた。
- ・ 地域における孤立状態にある子どもたちの支援モデルを「子どもケースマネジメント」として基金のランディングページの強化を実施した。初年度は 15 万円の寄付を募ることができた。
- ・ 子ども円卓会議を通じた見えない孤立の共有化・ファシリテーター支援→円卓会議を 3 回開催支援する。各回は、1) 課題共有、2) 支援手法、3) 実践課題と改善手法。その話し合いを担うファシリテーターを派遣した。合計 24 回派遣した。
- ・ 支援力の見える化として1) 団体の取組む支援を支援前のコンセプト、2) 支援中の様子、3) 支援後のふりかえりの3つを WEB 記事を掲載した。

<https://communityinvestment.jp/category/invisibleisolation/>

□次年度への課題すること

- ・ 寄付や基金実施時のプレスリリースの実施
- ・ 未来基金への安定収入をめざす
- ・ 基金に寄附財源を増やすためのパンフレットを作成する
- ・ 地域誌・ケーブルテレビを通じた発信を行う
- ・ 泉北クラウドファンディングサイトでのクラウドファンディング件数を増やす

(3)遺贈寄附受付窓口の運営

□今年度注力したこと

全国レガシーギフト協会と連携し基金に寄附財源を増やすための広報を実施している。

- ・ 遺贈寄付の相談を随時受け付けている
2023 年度 相談件数 1 件
- ・ 遺贈寄付の相談を受け付けるための窓口及び業務フローを設計した。
- ・ 連携する顧問弁護士と顧問契約を交わした。

□次年度、注力すること

- ・ いぞうの窓口の PR
- ・ 泉北ニュータウン住民や土業への PR

(4)堺市南区子ども応援プラットフォーム「ココ×カラ」事務局

プラットフォーム加盟団体を中心にオープンチャットを運営し、団体間の情報交流を行った。

(5)地域課題調査の実施

泉北ニュータウンの孤立と地域をつなぐ助成の事前評価を各団体と実施した。その結果、

高齢者の孤立、ひきこもり当事者の孤立、独居高齢者の孤立など多様な社会的孤立を調査した。

□次年度への課題

- ・泉北や周辺地域で活動する団体へのヒアリングを実施する
5月～7月 調査 / 8月～12月 サイトへの掲載
パートナー 大学生などインターンを公募して実施する
- ・泉北ニュータウンの子ども・保護者の実態を把握するためのアンケート調査
4月 連携可能校区への呼びかけ
5月 調査の実施
6月 速報発信、プレスリリースの発行

(6)事業評価の実施

事業評価を実施できていない。

□次年度への課題

評価のための指標はデータ化されているが評価するための体制構築が求められる

※定款に定める事業(5)(6)(7)(8)

4.管理業務

(1)事務局体制の強化

- 乗組員こと従業員を3名(2024年3月末時点)雇用している。

□次年度の課題

- 乗組員の正社員・短時間正社員雇用化
- 業務マニュアル類の整備

(2)内部管理体制

□今年度の成果

- 寄付者管理・寄付証明書発行のクラウド化によるワンストップでの業務改善、公益法人に求められる健全な内部管理体制整備(規程類の整備および見直し)

□次年度の課題

ガバナンス基盤を高める役職者研修や業務マニュアル類の整備

(3)研修・他地域交流

□今年度の成果

- 代表理事が全国コミュニティ財団協会に引き続き加盟し、協会の理事となった。
それに伴い、2024年3月1日全国コミュニティ財団協会第10回年次大会のモデレーターを務めた
テーマ コミュニティ財団から助成財団 PO の展望を語として、東近江三方よし基金、うんなんコミュニティ財団、南砺幸せ未来基金、市域コンソーシアムによる休眠預金事業の成果から考える「ローカルな総働で孤立した人と地域をつなぐ」事業について市町単位のコミュニティ財団の可能性を掘りさげた。
- 全国コミュニティ財団の実施する2021年度休眠預金助成金による、【公募終了】2021年度休眠預金等活用事業「地域の資金循環とそれを担う組織・若手支援者を生み出す人材育成事業」に置いて、伴走支援者として参画し採択された4団体への研修講師や、1団体への伴走支援を実施している。また、2023年度休眠預金助成金による担当理事を担っている。
- 全国コミュニティ財団の実施する災害時クラウドファンディングの構築と運営を、担当理事として参画し、他地域への災害時独自クラウドファンディングのノウハウ提供及び支援を行っている。特に2024年1月1日に発災した能登半島地震において、公益財団法人ほくりく未来基金と協働し1月2日から基金を設置し、52,934,295円(2024年5月15日時点)の寄付を募り、地域の草の根被災地支援活動の助成プログラムとして実施している。審査会の設置や基盤強化など支援を実施した。

(4)賛助会員

□今年度の成果

安定的な財源確保および本財団支援者の拡充のための会員の獲得を実施した

当財団の賛助会員として指定寄付を公募し2023年度13人199,888円(2022年度は19人・177,111円)の寄付を募った

- 同時に、下記3つの取り組みに活用できる運営寄付を実施し寄付を得た。
 - ①子どもを中心とした社会課題解決のコーディネーター等
 - ②コミュニティフリッジをはじめ泉北ラボの運営管理費

③財団の運営管理費

□次年度の課題

本格的な賛助会員募集をWEBと紙媒体でPRを行う

(5)情報発信

□今年度の成果

・ホームページ・SNSでの発信を強化した。

ホームページ <https://semboku-fund.org/>

コミュニティフリッジ専用ページ <https://semboku-fund.org/communityfridge/>

クラウドファンディングサイト <https://communityinvestment.jp/>

各支援先の特集記事 <https://communityinvestment.jp/activity-log/>

・SNS

泉北ラボ Instagram <https://www.instagram.com/lovesenboku/>

泉北ラボ Facebook ページ <https://www.facebook.com/love.senboku/>

財団 Facebook ページ <https://www.facebook.com/semboku.fund.org>

・メディア掲載

2023/07/01 とよなか♪まちづくり手帖 それゆけ！まちづくり探検隊！！～堺市南区・泉北ニュータウン 泉北ラボ～

2023/06/15 泉北コミュニティ(泉北ニュータウンのコミュニティ新聞) [堺市南区]非対面で食品など受け取り 物資の支援者募る 高倉台の泉北ラボ

2023/06/02 堺市公式 HP SENBOKU スマートシティコンソーシアムと近畿大学が連携した「カレッジラボ」に参画

2023/05/17 Yahoo ニュース ヨーロッパ発「みんなの冷蔵庫」って？ フードロス削減や子育て支援にも 広がる“助け合いの輪”

2023/05/10 ABC テレビニュース news おかえり news おかえり/【ヨーロッパ発】“食料品をシェアする“みんなの冷蔵庫”日本では生活困窮の子育て世帯支援

□次年度への課題

設立5周年に向けた発信の強化

寄附者への説明責任を果たすための情報発信の強化

アニュアル・レポートの発行

視察やコンサルティングなどノウハウ移転業務の検証

(6)運営

中長期的視点を持った健全な財務運営の維持のために事業を改善するために理事会を毎月開催し議論を行った。

□次年度への課題

・5～10年後を見据えた中長期ビジョンの設定

・業務担当理事、業務担当職員など法人一体での運営の検討

【評議員会の開催状況】

第6回評議員会(書面決議)

(日 時) 2023年3月31日

(場 所) 書面表決

(内 容) 決議事項

第1号議案 2023年度度計算書類の承認

第2号議案 2023年度事業計画書の確認

第7回評議員会

(日 時) 2023年6月22日8時00～18時50分

(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

(評議員総数)7名

(出席者数) 7名

(内 容) 決議事項

第1号議案 2022年度事業報告

第2号議案 2022年度決算承認

第3号議案 評議員の改選

第8回臨時評議員会(書面決議)

(日 時) 2023年6月22日

(場 所) 書面表決

(評議員総数)7名

(出席者数) 7名

(内 容) 決議事項

第1号議案 監事の再任

【理事会の開催状況】

第1回理事会(第38回)

(日 時) 2023年4月26日 19時30分から21時00分

(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

(理事総数) 理事7名 監事2名

(出席者数) 理事7名 監事2名

(内 容)

報告1 泉北ラボの運営

報告2 コミュニティフリッジ

報告3 休眠預金事業・実行団体の中長期アウトカム検証報告

報告4 休眠預金事業 2023年度助成金進捗状況

報告5 4月時点での乗組員体制について

議案1 2022年度事業報告・決算

議案2 コンプライアンス委員会

第2回理事会(第39回)

(日 時) 2023年5月24日 19時30分から21時00分

(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

- (理事総数) 理事7名 監事2名
 (出席者数) 理事5名 監事2名
 (内 容) 報告1 泉北ラボの運営
 報告2 コミュニティフリッジ
 報告3 休眠預金事業 2023年度助成金進捗状況
 報告4 4月時点での乗組員体制について
 報告6 タスク分散と情報共有体制
 報告7 会計バックオフィス体制
 議案1 2022年度事業報告・決算
 議案2 中長期計画ミーティング開催について

第3回理事会(第40回)

- (日 時) 2023年6月28日 19時30分から21時00分
 (場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
 テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施
 (理事総数) 理事7名 監事2名
 (出席者数) 理事6名 監事2名
 (内 容) 報告1 泉北ラボの運営
 報告2 休眠預金事業 2023年度助成金進捗状況
 報告3 定時評議員の開催について
 議案1 令和5年度「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査」
 大阪ボランティア協会コンソーシアム加盟
 議案2 中長期計画ミーティング開催について
 議案3 勤務体制について

第4回理事会(第41回)

- (日 時) 2023年7月26日 19時30分から21時00分
 (場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
 テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施
 (理事総数) 理事7名 監事2名
 (出席者数) 理事4名 監事2名
 (内 容) 報告1 泉北ラボの運営
 報告2 休眠預金事業 2023年度助成金進捗状況
 報告3 おおさか災害支援ネットワーク世話役団体就任
 議案1 令和5年度「孤独・孤立対策活動基盤整備モデル調査」
 大阪ボランティア協会コンソーシアム加盟
 議案2 中長期計画ミーティング開催について

第5回理事会(第42回)

- (日 時) 2023年8月23日 19時30分から21時00分
 (場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
 テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施
 (理事総数) 理事7名 監事2名
 (出席者数) 理事6名 監事1名

- (内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 職員の勤務状況
報告3 寄付相談の受
報告4 中長期計画ふりかえり評価の進捗状況
報告5 メディア紹介について
議案1 休眠預金事業 2023年度助成中間評価
議案2 中長期計画ミーティング開催について

第 6 回理事会(第 43 回)

- (日 時) 2023 年 9 月 27 日 19 時 30 分から 21 時 00 分
(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクスト D 棟 2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

- (理事総数) 理事7名 監事2名
(出席者数) 理事 6 名 監事 1 名
(内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 寄付相談の受付
報告3 助成金事業の進捗について
報告4 休眠預金事業 2023年度助成金進捗状況
報告5 寄付月間 2023 アンバサダー就任のお知らせ
議案1 最低賃金引き上げに伴う給与見直し
議案2 給与規定の具体化について
議案3 中長期計画ふりかえり評価
議案4 休眠預金事業について

第 7 回理事会(第 44 回)

- (日 時) 2023 年 10 月 25 日 19 時 30 分から 21 時 00 分
(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクスト D 棟 2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

- (理事総数) 理事7名 監事2名
(出席者数) 理事 4 名 監事 2 名
(内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 寄付相談の受付
報告3 最低賃金引き上げに伴う給与見直し報告
報告4 給与規定の具体化
報告5 代表理事の動き
議案1 休眠預金事業中間評価
議案2 中長期計画ふりかえり評価

第8回理事会(第 45 回)

- (日 時) 2023 年 11 月 22 日 19 時 30 分から 21 時 00 分
(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクスト D 棟 2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

- (理事総数) 理事7名 監事2名
(出席者数) 理事 4 名 監事 2 名

- (内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 職員退職報告
報告3 休眠預金事業進捗状況
報告4 季節手当について
報告5 代表理事の動き
報告6 公益法人としての進捗状況
報告7 インターン受け入れについて
報告8 協賛について
議案1 議事録記録の扱い
議案2 休眠預金事業中間評価
議案3 中長期計画ふりかえり評価
議案4 12月寄付月間

第9回理事会(第46回)

- (日 時) 2023年12月27日 19時30分から21時00分
(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施
(理事総数) 理事7名 監事2名

- (出席者数) 理事4名 監事2名
(内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 休眠預金事業進捗状況
報告3 代表理事の動き
議案1 発災時の意思決定基準の合意
議案2 12月寄付月間

第10回理事会(第47回)

- (日 時) 2024年1月24日 19時30分から21時00分
(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

- (理事総数) 理事7名 監事2名
(出席者数) 理事4名 監事2名
(内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 休眠預金事業進捗状況
報告3 代表理事の動き
報告4 遺贈寄付連携
報告5 防災トイレ設置工事
報告6 公益法人改革
報告7 12月寄付月間
議案1 発災時のBCP
議案2 視察内容と受け入れについて

第10回理事会(第48回)

- (日 時) 2024年2月28日 19時30分から21時00分

(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

(理事総数) 理事7名 監事2名

(出席者数) 理事4名 監事1名

(内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 休眠預金事業進捗状況
報告3 代表理事の動き
報告4 遺贈寄付相談
報告5 防災トイレ設置工事
報告6 公益法人改革
報告7 12月寄付月間
議案1 発災時のBCP
議案2 次年度注力する事業
議案3 休眠預金事業中間評価

第11回理事会(第49回)

(日 時) 2024年3月27日 19時30分から21時00分

(場 所) 大阪府堺市南区高倉台シェアタウン泉ヶ丘ネクストD棟2 泉北ラボ
テレビ会議システム(利用サービス名:Zoom)を利用して実施

(理事総数) 理事7名 監事2名

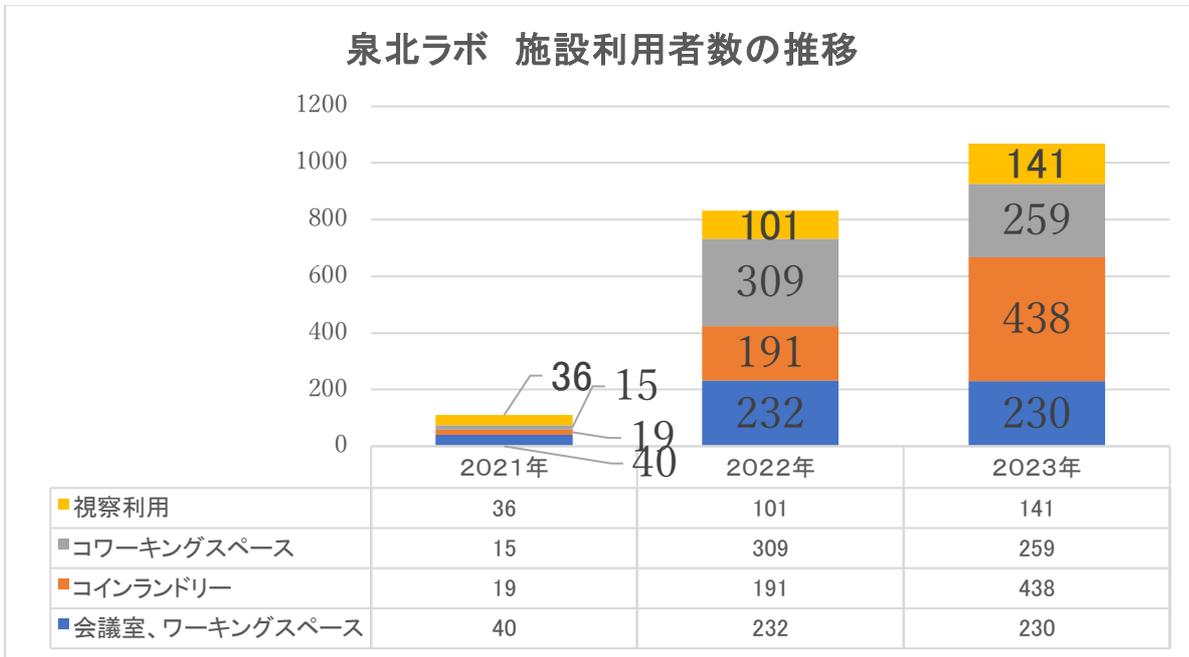
(出席者数) 理事7名 監事1名

(内 容) 報告1 泉北ラボの運営
報告2 休眠預金事業進捗状況
報告3 代表理事の動き
議案1 次年度予算案
議案2 次年度事業計画

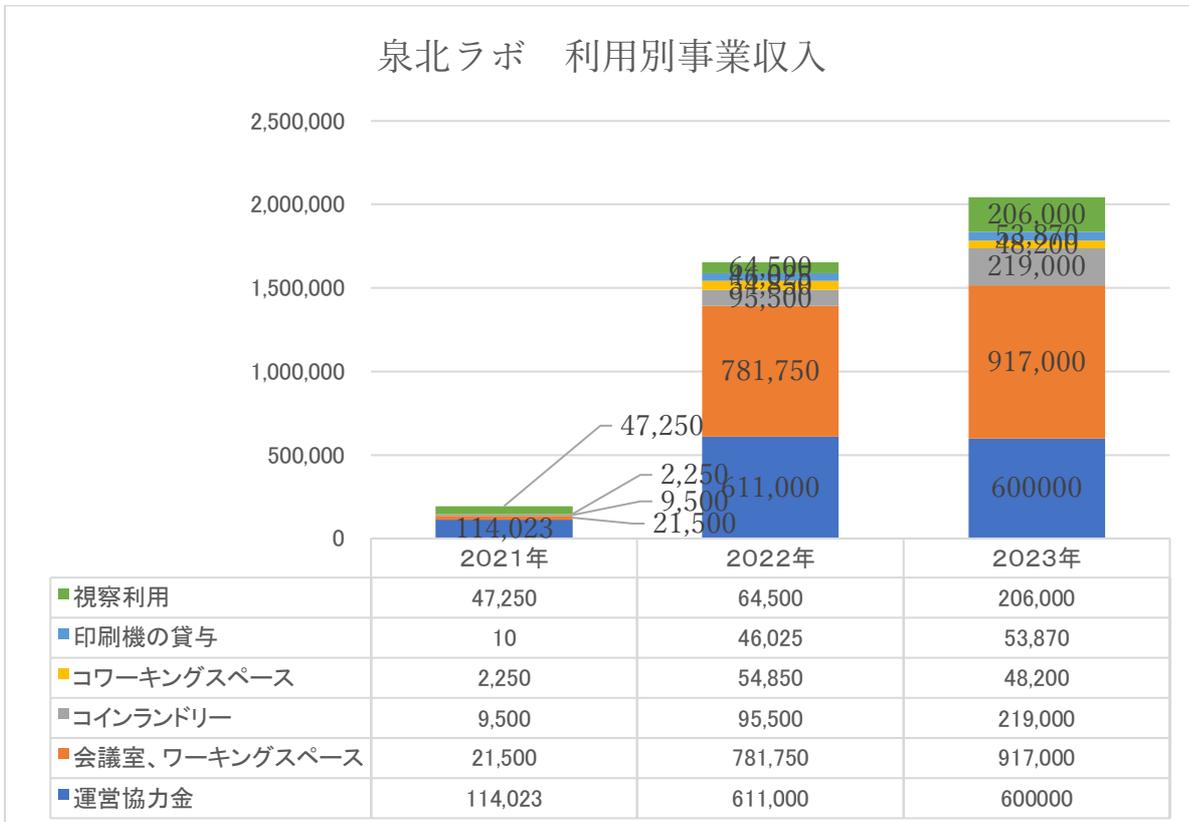
以上

資料集

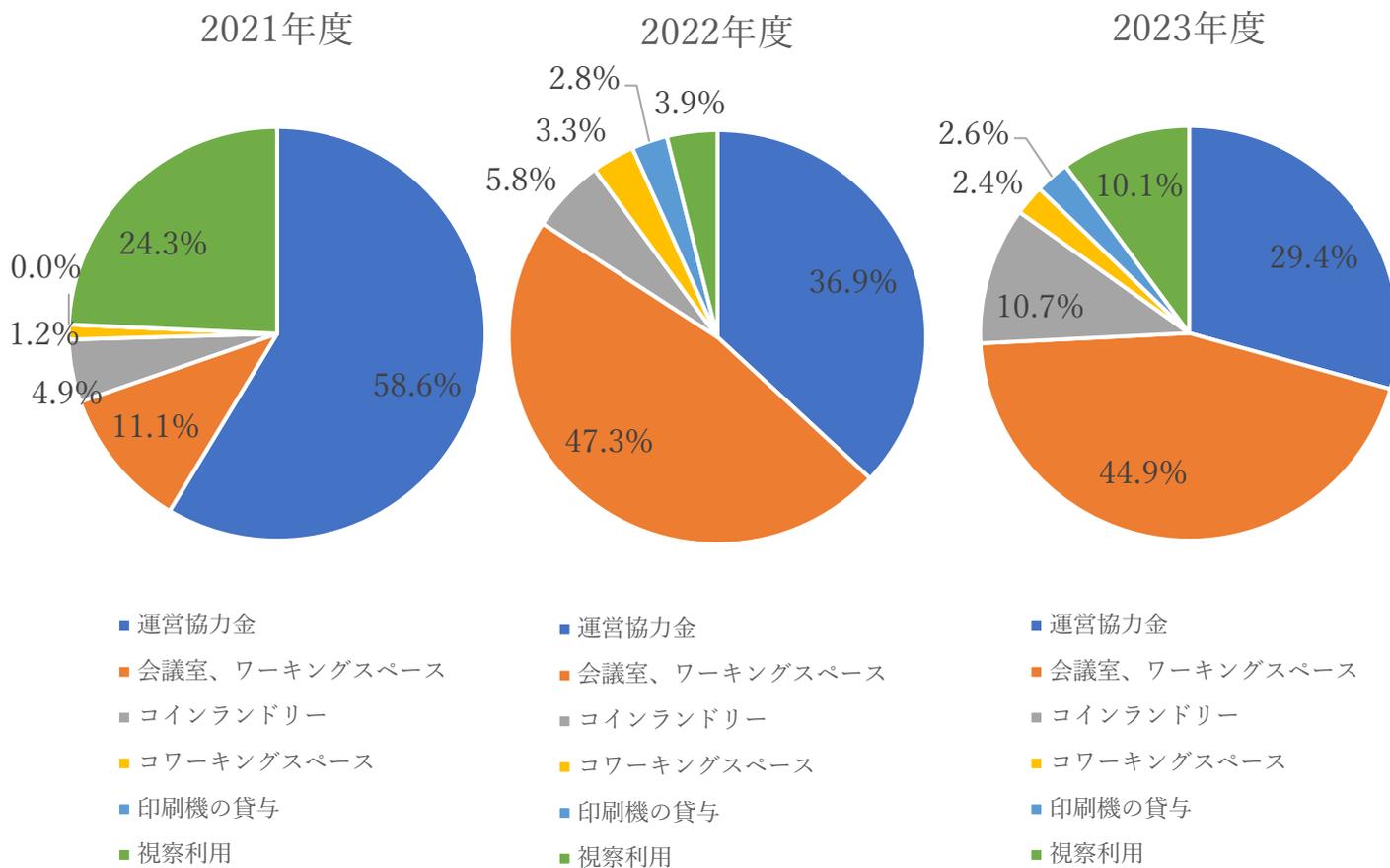
図①団体支援拠点「泉北ラボ」の運営を通じたコーディネートの実施
 ※該当箇所・・・事業報告書 P2-3



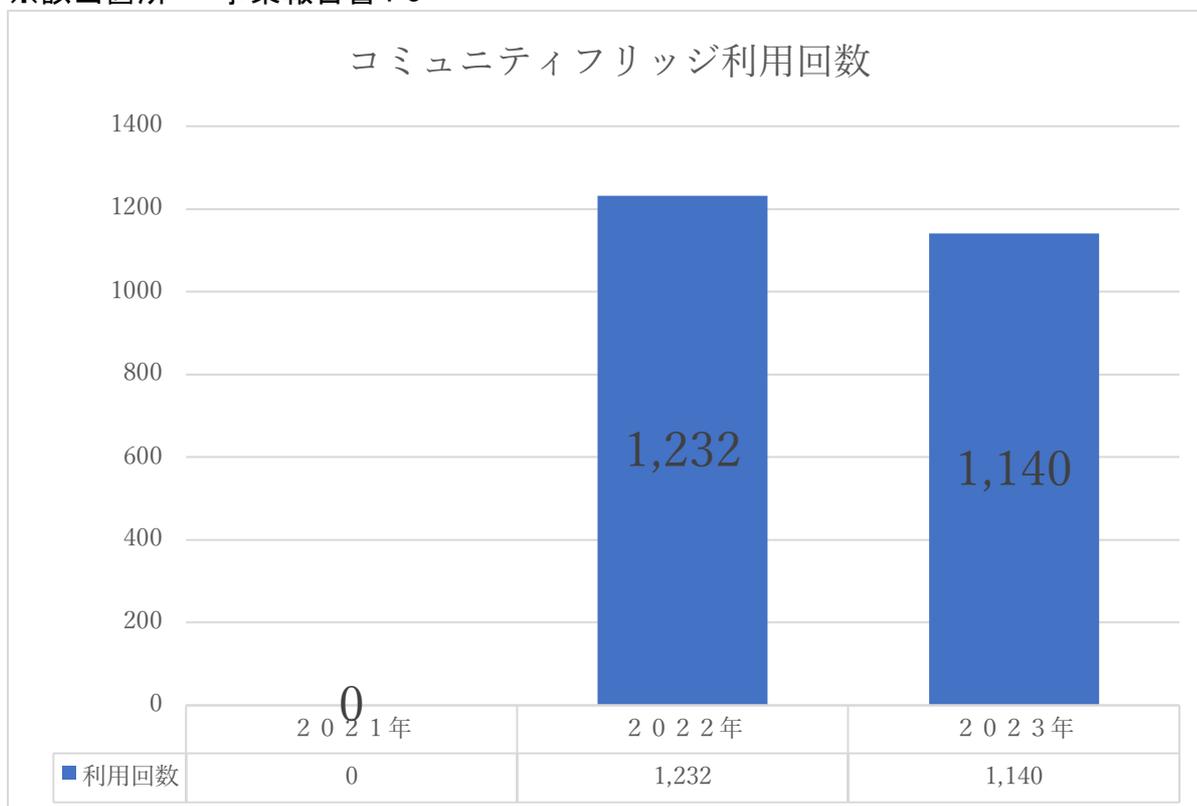
※該当箇所・・・事業報告書 P2-3



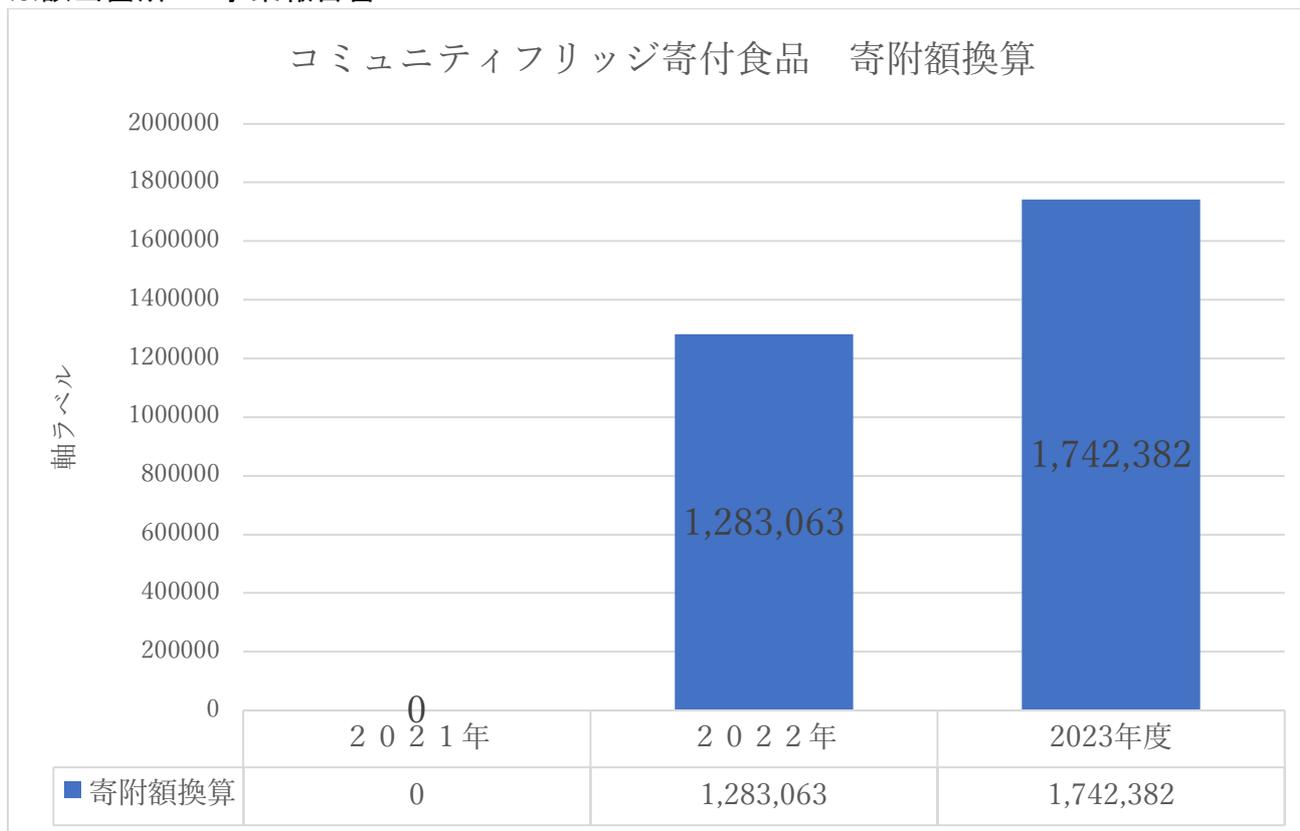
年度別泉北ラゴ収入構造の変遷
※該当箇所…事業報告書 P2-3



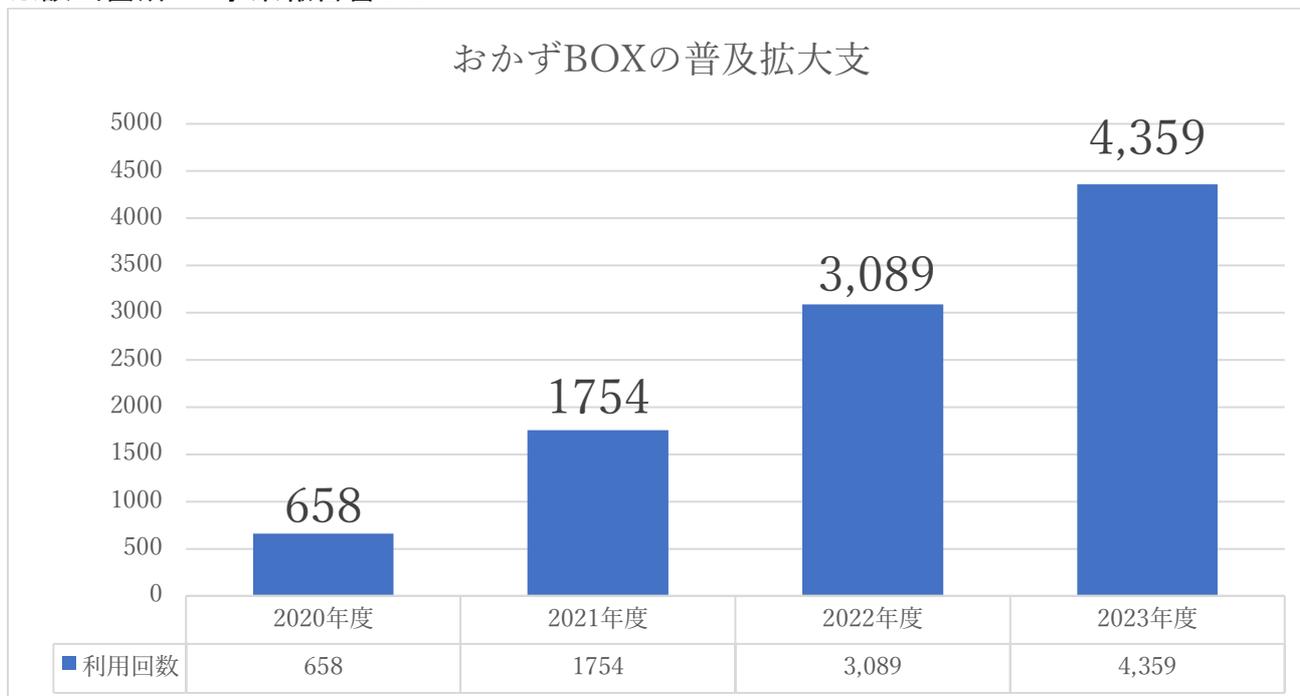
※該当箇所…事業報告書 P3



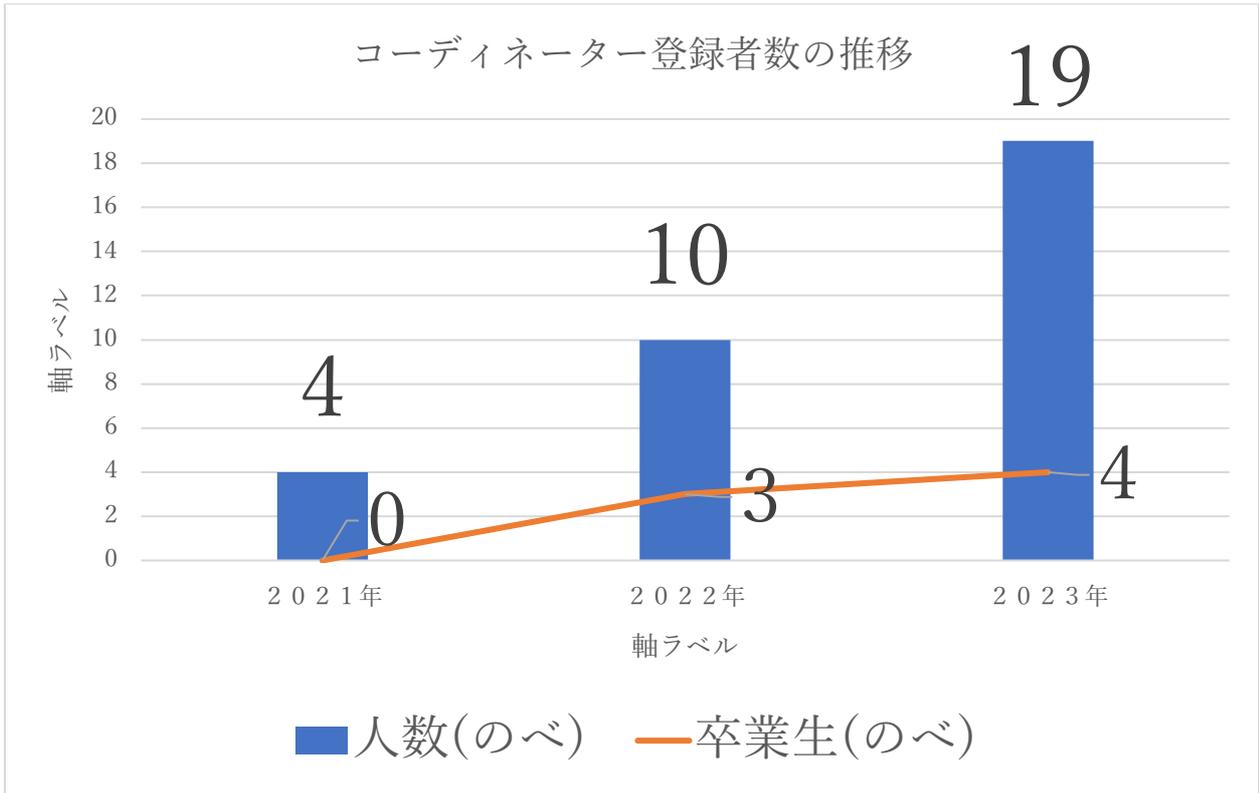
※該当箇所・・・事業報告書 P3



※該当箇所・・・事業報告書 P4

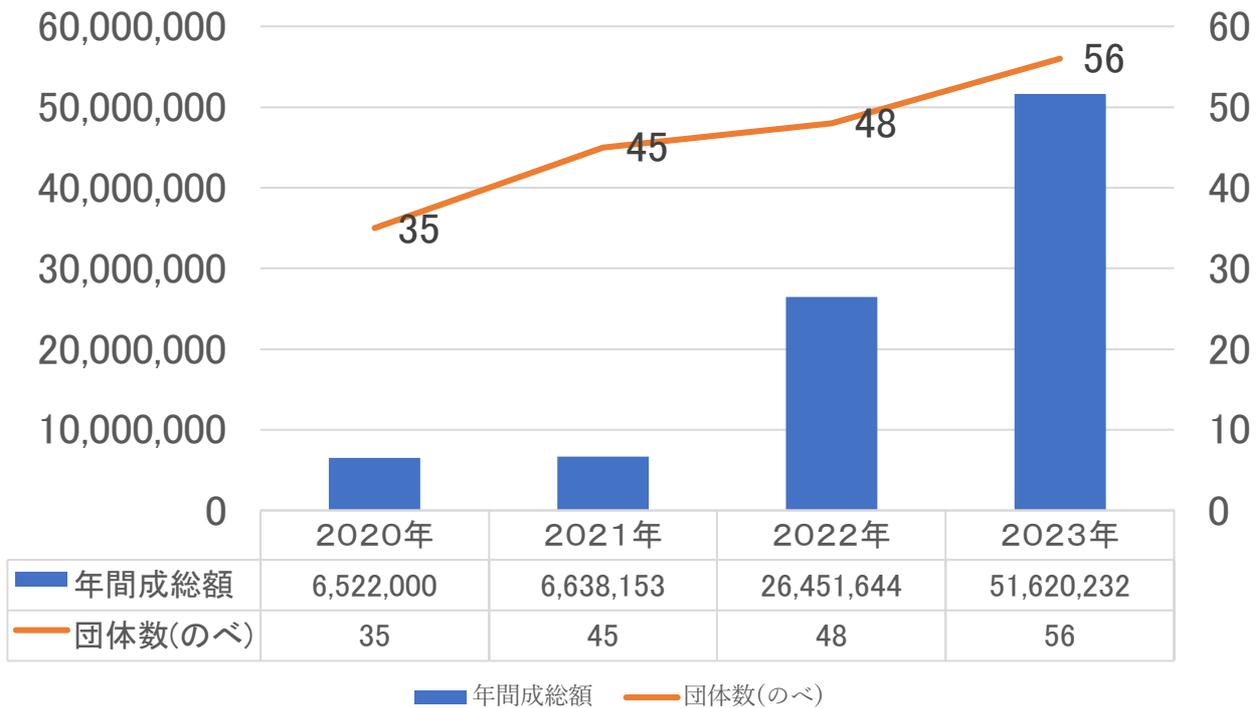


※該当箇所・・・事業報告書 P4



※該当箇所・・・事業報告書 P5

助成プログラムを通じた支援団体数と金額の推移



※該当箇所・・・事業報告書 P4

■実施事業

施設情報	ほーぷカフェ https://www.instagram.com/hopecafe.2023/ 大阪府堺市南区竹城台4丁15-12
団体名	NPO 法人福祉ワーカーズほーぷ https://i-hope.info/
申請事業名	福祉コミュニティモール開設事業
審査委員会 コメント	社会状況や課題の問題構造の把握が十分に行われており、本助成プログラムにおいて設定した課題に対しての事業の妥当性並びに実行可能性が高く評価されるとともに、多様な関係者との協働について事業の準備段階から終了後までの体系的な連携と対話が設計されており、地域との連携を大切にしている点から高い波及効果が期待される。

NPO 法人ほーぷは土地取得の契約を2023年2月に契約し、新築物件を建て2024年1月にほーぷカフェをオープンした。所在地のある竹城台では高齢化も増え、近隣商店街も閉店する店も出ており、気軽な外出場所が減る中で1日平均25-30人の来場で推移している。これまで地域に居場所がゼロであったエリアに、新しい居場所と市場を広げたことが、今後のニュータウンの小さな拠点の実践をモデル化することにつながると考えている。特に現在国も本腰を入れている地域共生社会づくりや重層的支援体制整備事業の民間主導のモデルが重要だと考えている。また、事前評価では地域の高齢者アンケートを実施している。特に事前評価では高齢者男性の4割が「居場所を不要」と回答するなど、社会的孤立の状況の深刻さを確認した。

施設情報	泉北 BASE(フリースクールの運営するカフェ駄菓子屋) https://www.instagram.com/senbokubase_lacina/ 大阪府堺市南區城山台2丁2-8(城山台近隣センター内)
団体名	特定非営利活動法人志塾フリースクールラシーナ https://lacina.shijuku-fs.org/
申請事業名	不登校の子どもと地域の子どもがゆるくつながる居場所事業 泉北ひみつ基地
審査委員会 コメント	社会状況や課題の問題構造の把握が十分に行われており、本助成プログラムにおいて設定した事業の妥当性及び実行可能性が高く評価されるとともに、多様な人の参加の仕組みを生み出しながら、地域の新しい拠点としての波及効果が高く、連携と対話の構築を通じ地域自治への還元が期待される。

NPO 法人志塾フリースクールラシーナは、2023年1月に近隣センターというニュータウン内の商店街にて塾の跡地の賃貸が完了し2023年6月 OPENした。特に、泉北ニュータウンには常設型のフリースクールがゼロ件だった状況から、フリースクールの発信を先に進め契約生徒数 12 名になった。潜在的な不登校生徒の発掘が進んだ。また、これまで志塾フリースクールラシーナのフリースクールは業態としては「学習塾」と同じ形態で、ビルの4-5階など1階に設置されることがなかった。しかしカフェ併設の居場所を1階に開くことで、相談数が倍増している。その相談数を支えるレジ通過者人数が3月末時点で10,000人という数字的な把握も重要である。その結果、毎月実行会議に置いて、地域で見過ごされていた、または、個人の好意に任せられていた子どもたちの支え合い事業が地域で生まれはじめている。また、新たに見えてきた中高生の居場所やフリースクールや夜間フリースクールなどの新業態の準備を進めることになっている。こども家庭庁の視察受け入れや、他の資金分配団体の支援する地域からの視察など、子どもを地域で見守る事業モデルへの期待の高さを感じている。

施設情報	茶山台ほけんしつ https://www.instagram.com/danchi.life.labo/ 堺市南區茶山台2丁1番(茶山台団地21棟301号室)
団体名	特定非営利活動法人団地ライフラボ at 茶山台 https://danchilifelobo.hp.peraichi.com/
申請事業名	孤立を生み出さない、地域の声・困りごとをみんなのアイデアで解決する関係づくり ～日本一多様な幸せが実現できる団地をめざして～
審査委員会 コメント	社会状況や課題の問題構造の把握が十分に行われており、本助成プログラムにおいて設定した課題に基づく事業の妥当性及び先駆性が高く、多様な関係者との協働、事業の準備段階から終了後までの体系的な対話が想定されている点について連携と対話、波及効果について期待される。ただし、今回の助成プログラム公募時期に新たに結成された団体であり、団体構成員の実績はあるものの、団体としての実績がないことから、より精緻な経営戦略を十分に練り上げるとともに、助成後2年を目途に自立性を担保できるよう努めることを付帯条件として採択する。

NPO 法人団地ライフラボは団地オーナーの大阪府住宅供給公社設置の「茶山台ほけんしつ」がスタートした。同時に、健康づくり拠点を予定している部屋ですでに2018年より運営している「やまわけキッチン」を間借りし開館し、潜在的な地域の孤独な住民のカルテを100件以上えている。「健康相談の開催」を行い、住民さんとの関係づくり。この活動を知ってもらうためのイベント出店などを行った。看護師、リラクスマッサージの専門家が詰めて相談会を行ったり、地域の高齢者のカルテ作成など収益事業を生み出すための基礎的な調査と情報収集が進んでいる。2024年度中に収益事業のテスト実施の準備を進めている。特に現在国も本腰を入れている地域共生社会づくりや重層的支援体制整備事業の民間主導のモデルが重要であるが、公的賃貸の自治モデルとして移動支援や任意後見人による鍵預かり事業というコミュニティビジネスの事業としてモデル化を支援したいと考えている。

※該当箇所…事業報告書 P7

